

平成 27 年度 第 5 回 牧之原市自治基本条例推進会議

次 第

日時：平成 27 年 10 月 7 日（水）

午前 9 時 00 分から午前 11 時 00 分

会場：牧之原市役所 榛原庁舎 4 階会議室 1～3

1 開 会

2 会長挨拶

3 市長挨拶

4 議 題

(1) 公共施設マネジメント 第 1 回対話の場・現地視察について（報告）
・公共施設マネジメントに係る意見交換

(2) 公共施設マネジメント 第 2 回対話の場について

5 副会長挨拶

6 連絡事項

7 閉 会

【配布資料】

- ・資料 No.1 公共施設マネジメント 第 1 回対話の場 資料
- ・資料 No.2 公共施設マネジメント 現地視察 資料
- ・資料 No.3 公共施設マネジメント 第 2 回対話の場 資料



絆と元気が繋がる

幸せあふれみんなが笑う

NEXTまきのほら

平成 27 年度 第 1 回公共施設マネジメント 対話の場

次 第

日時：平成 27 年 9 月 9 日（水）

午後 1 時 30 分から午後 4 時 30 分

会場：榛原文化センター 3 階大会議室

1 開 会

2 挨拶

- ・自治基本条例推進会議 副会長
- ・牧之原市長

3 議 題

(1) ワークショップ①

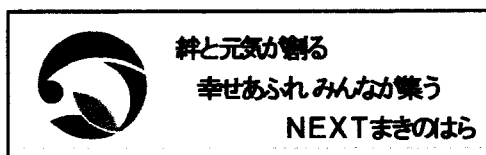
「公共施設に関する楽しい想いの出し合い」

(2) ワークショップ②

「現状や基本的な考え方を知り、感じたこと、共感したことを共有する」

4 連絡事項

5 閉 会



担当：地域創生課地域創生係（本間直樹）

電話：0548-23-0053

アドバイザー プロフィール

【対話の場の運営・基本計画の策定】

三菱UFJリサーチ&コンサルティング
株式会社
政策研究事業本部 東京本部
公共経営・地域政策部 主任研究員
コンセンサス・デザイン室長

西尾 真治 さん



地方行財政・地方自治・行財政改革・公共施設マネジメントなどが専門分野
1994年に三和総合研究所（現在の三菱UFJリサーチ&コンサルティング）に入所し、2006年から主任研究員
2010年には、さいたま市の行財政改革推進本部の副理事に就任し、2014年までの3年間、公共施設マネジメント等の業務に携わった。
2014年に再度同社に入社

【グラフィックハーベスティング】

一般社団法人 サステナビリティダイアログ
理事

牧原 ゆりえ さん



1997年国際基督教大学を卒業後、大手監査法人に公認会計士として勤務。出産を機にサステナビリティに強い関心を持つようになる。

2009年家族でスウェーデンへ。持続可能な社会のための戦略的なリーダーシップを学ぶ修士課程、持続可能なプロダクト・サービス・システムズ・イノベーションを学ぶ修士課程で学ぶ。留学中に会った北欧発の参加型リーダーシップトレーニングArt of Hosting、同Art of Harvesting、グラフィック・ファシリテーションをスウェーデン、デンマーク、スイスのトレーニングや対話の場で実践。

Art of Hosting Japanの世話人。スウェーデンのサステナビリティ戦略フレームワークを伝える。

公共施設マネジメント基本計画 の策定に係る“現地視察”

資 料

平成 27 年 9 月 29 日 (火)

牧之原市政策協働部地域創生課

1 概要とスケジュール

(1) 目的

公共施設マネジメント対話の場の参加者が公共施設の現地を確認し、状況を把握することで、今後の話し合いを円滑に進めることを目的とする。

市内全ての施設を確認することは困難なため、複合利用や民間利用など「施設を賢く使う」うえで重要なポイントとなる施設を対象とする。

(2) 日時

平成 27 年 9 月 29 日 (火) 午後 1 時 30 分から午後 4 時 30 分

※榛原文化センター前に集合・解散

(3) スケジュール

No	視察先	時間	視察内容
1	市役所榛原庁舎	13:30~13:45	・榛原庁舎周辺施設の配置状況 ・庁舎や文化センターの施設の状況
2	相良小学校	14:00~14:40	・小学校施設の状況 ・相良小学校の施設利用の状況
3	市役所相良庁舎	14:50~15:20	・相良庁舎の持つ機能 ・相良庁舎周辺施設の配置状況
4	牧之原市史料館	15:20~15:35	・史料館の機能 ・史料館の施設の状況
5	川崎幼稚園	15:50~16:30	・認定こども園の概要 ・子育て支援センターの機能

(4) 視察のポイント

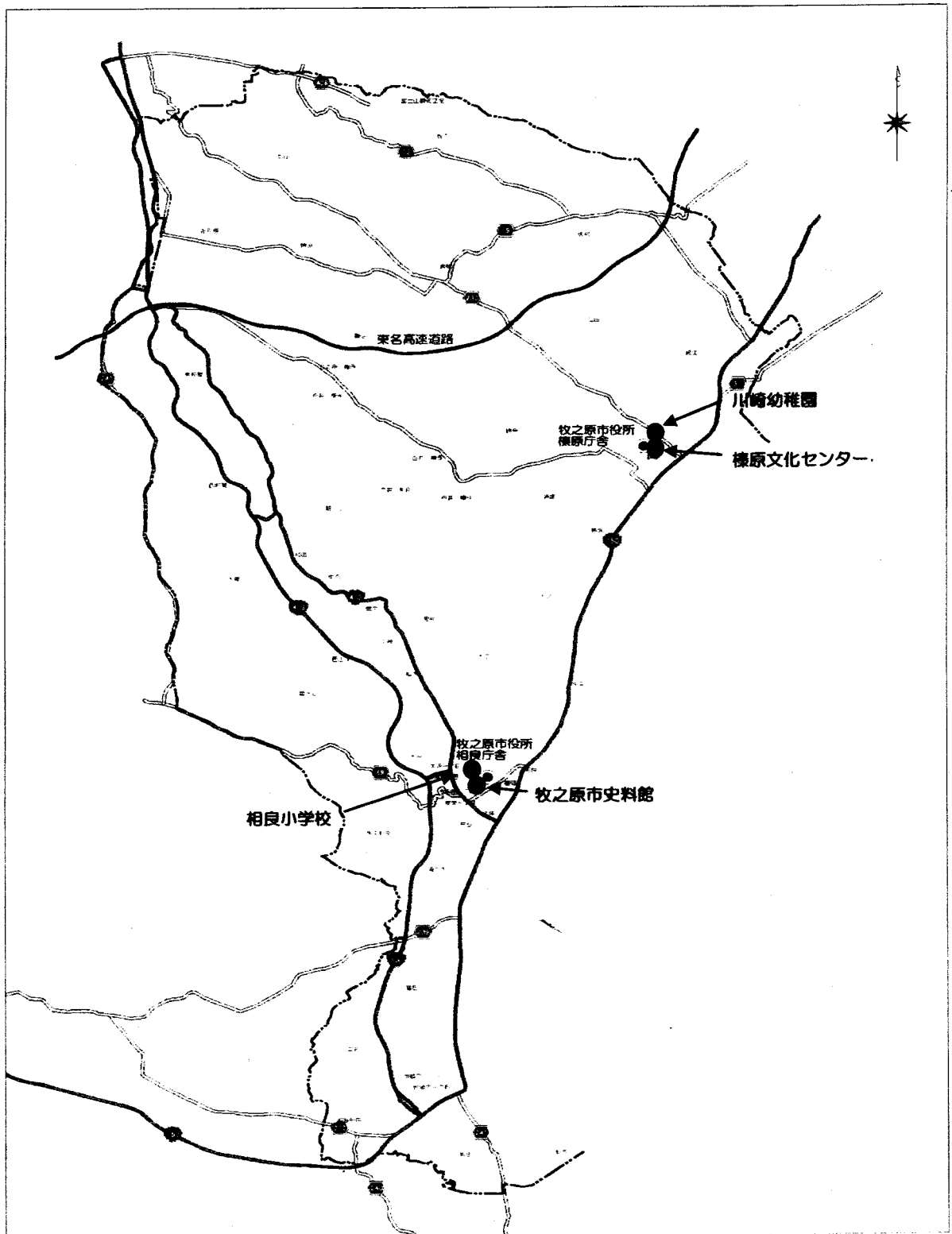
今回の視察先は、大きく 3 つの分類です。

- 旧榛原、相良の中心にある行政機能を持つ施設
- 全体の 4 割を占める学校施設
- 民間の認定子ども園（幼保一体型）施設

現地を見て、雰囲気を感じながら考えましょう！

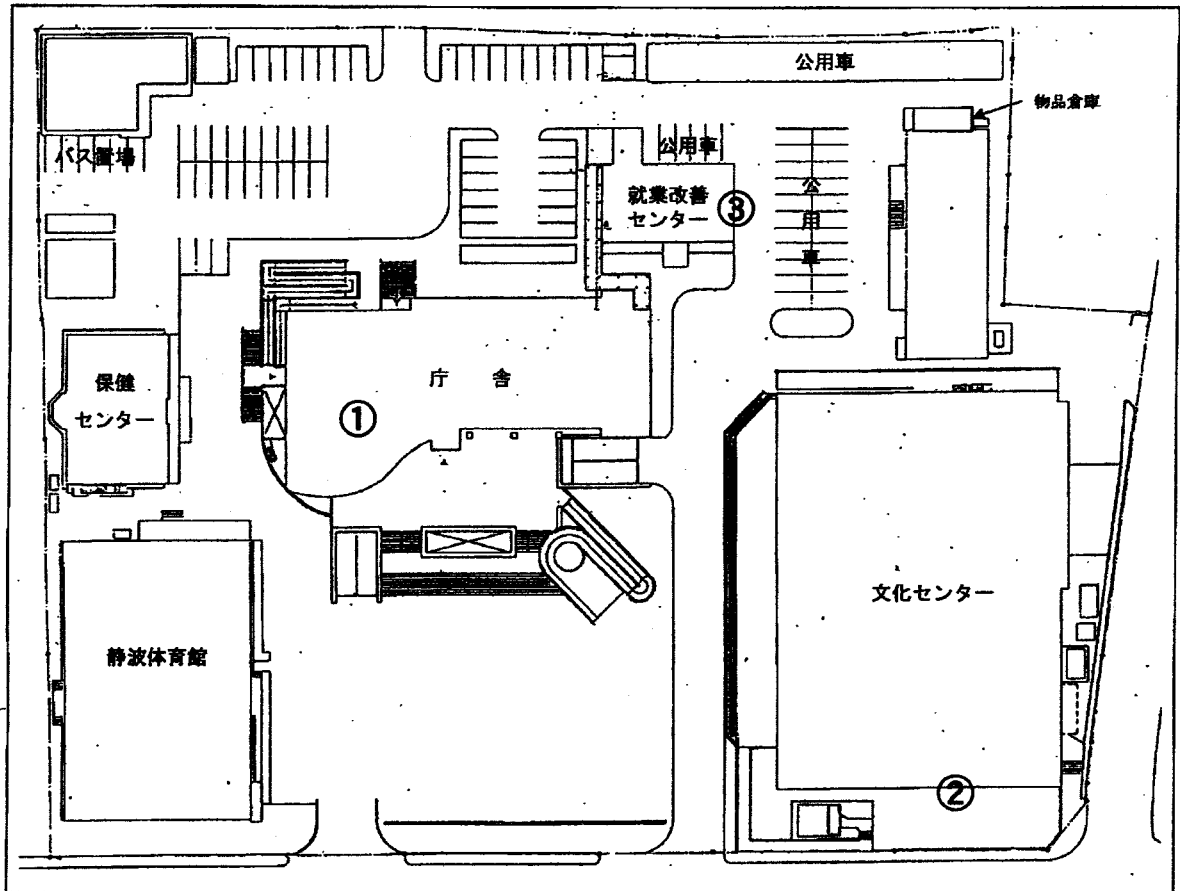
行政機能の効率よい配置、学校施設の建築当時との状況の変化、民間による公共機能の運営、施設の複合化などを考える際の参考としてください。

2 視察先の位置図



3 視察先の概要

(1) 榛原庁舎の周辺施設



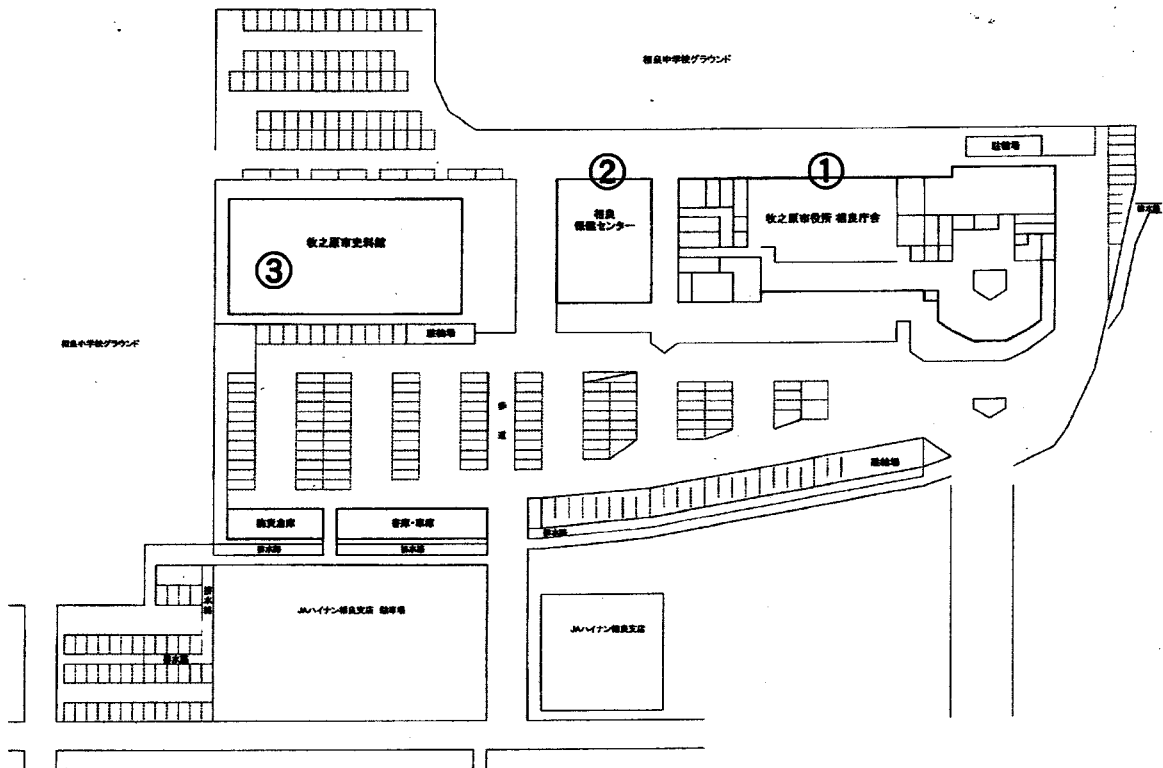
○施設の利用状況

No	名称	機能	施設の状況等
1	榛原庁舎	市長室、副市長室、総務部、政策協働部 市民生活部（市民課、税務課、納税課） 健康福祉部（高齢者福祉課）	平成6年建築 外壁の修繕を実施中
2	文化センター	健康福祉部（社会福祉課）※1 教育文化部（社会教育課） 図書室、貸会議室、ホール※2	昭和54年建築 平成24年会館棟の耐震補強実施
—	総合健康福祉センター	健康福祉部（健康推進課、子ども子育て課） 貸会議室、子育て支援センター、ボランティア室等	平成14年建築
3	就業改善センター	建設部（水道課） 市民相談センター	昭和52年建築

※1 現在、福祉事務所（社会福祉法の規定により市に設置を義務化）として利用

※2 ホール棟は、施設の老朽化や耐震不足のため平成24年に閉鎖

(2) 相良庁舎の周辺施設



○施設の利用状況

No	名称	機能	施設の状況等
1	相良庁舎	議会、教育文化部、産業経済部、建設部（建設管理課、建設課、都市計画課） 市民生活部（相良窓口課、環境課）、図書室	昭和 60 年建築
2	相良保健センター※1	健康福祉部（健康推進課）、栄養指導室、集団指導室	昭和 60 年建築
3	史料館※2	歴史資料の展示、ホール	昭和 56 年建築

※市内に居住し、健康づくりをしようとする者が利用できる施設

※耐震性が不足、1階は歴史史料を展示しているが空調機能が無い。

(3) 前回のキーワード

「20年先の将来を見据えたまちづくりの視点で賢く使う」

- ・ 既成概念や価値観にとらわれず、未来志向で考える。
- ・ 施設の総量は減らすけど、工夫して大事な機能を残す。
- ・ 複合化や官民連携などの新しいアイデアを考える。

こんなことを意識して施設を視察してください。

4 連絡事項

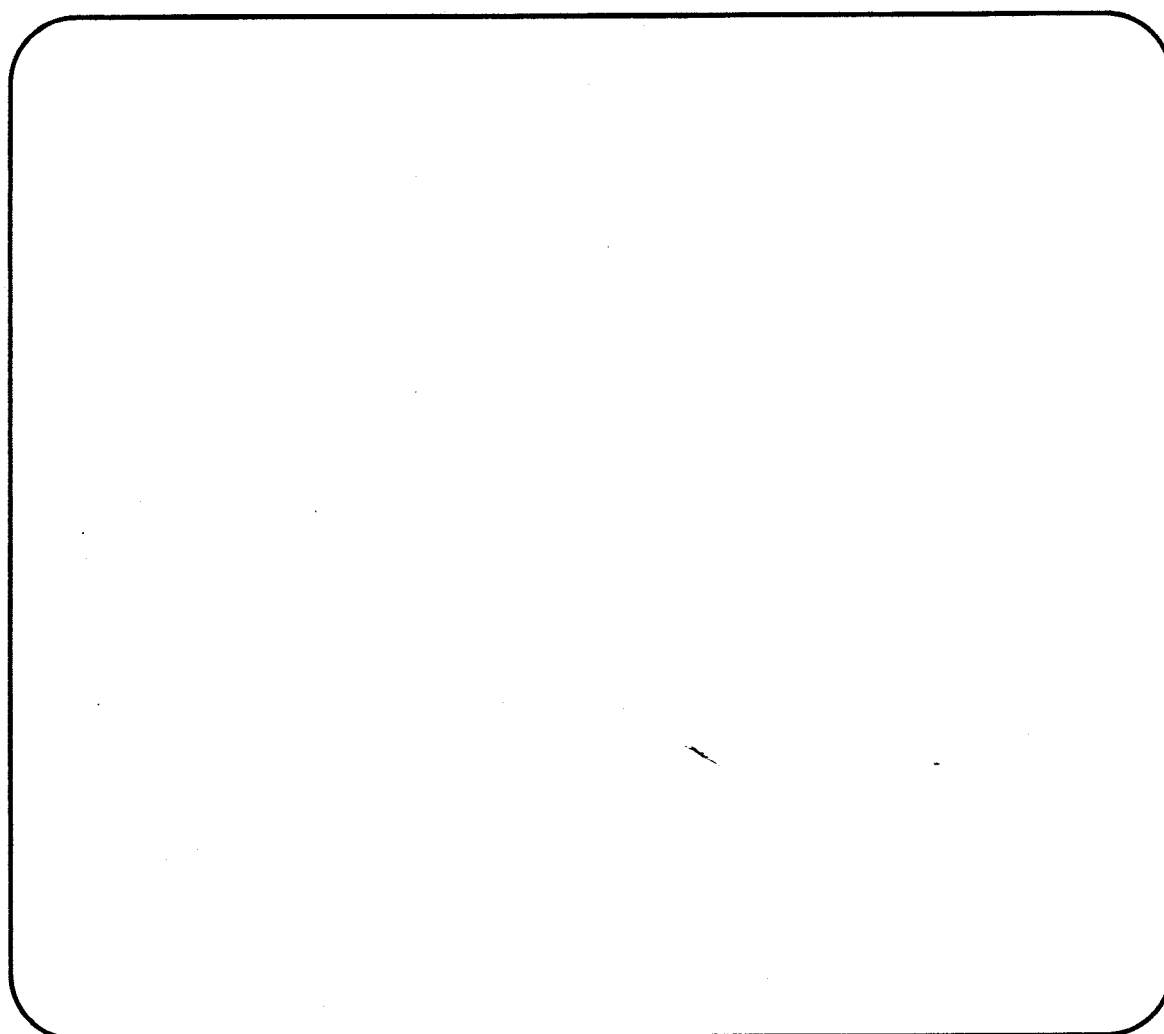
次回は、10月8日（木） 午後2時30分から5時30分

※いつもよりも1時間遅いため、間違えないよう注意してください。

会場は、榛原総合病院 展望レストランです。

終了後に懇親会を予定しています。是非、皆さん参加してください。

【メモ欄】



【事務局】

牧之原市政策協働部地域創生課（本間直樹）

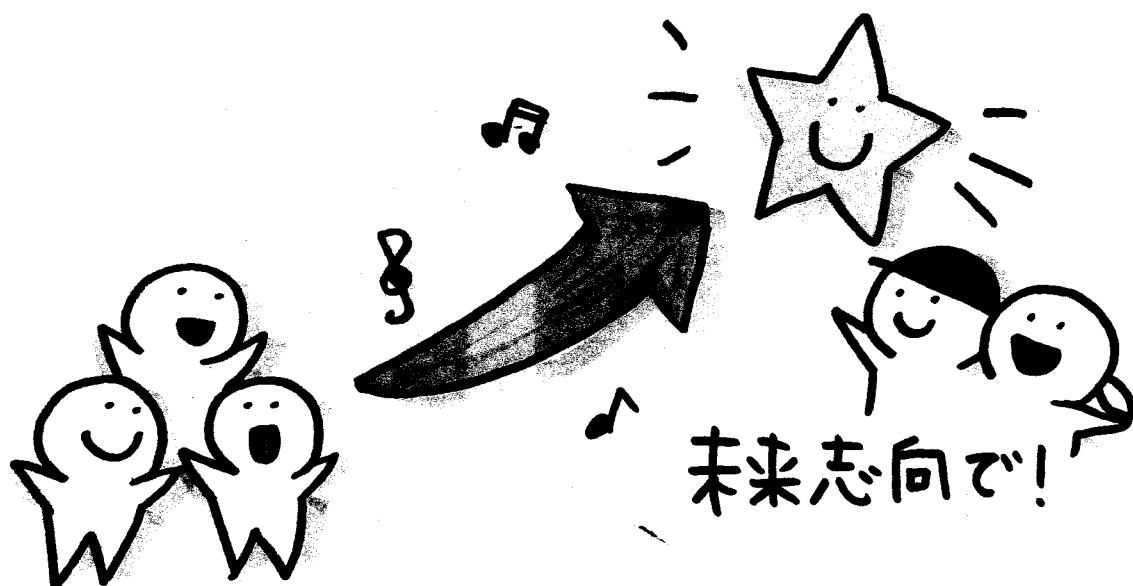
電話：0548-23-0053 FAX：0548-23-0059

E-mail：seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp

公共施設マネジメント基本計画の策定に係る

第2回 対話の場

資料



平成27年10月8日(木)

牧之原市政策協働部地域創生課

1 振り返り

(1) 第1回 対話の場

- 日時：平成27年9月9日
- 会場：榛原文化センター3階 大会議室
- ワークショップ

テーマ①

「公共施設に係る楽しい思い出の出し合い」

テーマ②

「全国、牧之原市の現状や公共施設マネジメントの基本的な考え方を聞き、感じたことを共有する。」

●話し合いの様子



大切にしたい視点として、「未来志向で考える」、「賢く使う」、「自分たちで」、「共感」などの意見が出された。

別添のグラフィック資料で説明します。

●共感ポイントのまとめ

個別意見を含めたま

とめは、別紙のとおり

大類	中分類	小分類	意見	グループ番号	
大切にしたい視点	未来志向	長期的視点	長期的視野で考える必要性	4①	
		幸福観の再定義	幸福度は施設の数じゃない!!	6③	
		子育ての視点	安心して子どもを産み育てる環境の視点で施設を検討	8③	
			幼保小学校どうしよう?地域コミュニティのために大切	3③	
		防災の視点	防災の視点を取り入れて、デザイン性を追求する	2③	
			災害時の有効性を考慮した施設の検討	8④	
		コミュニティの視点	少子化だけど、地域のコミュニティも大切にしたい	3③	
	地方創生との連動	人口が増える施策を考える必要がある	3④		
	賢く使う	今あるものを生かす	賢く使う	7⑤	
			今あるものを賢く使う	1④	
		工夫	工夫して利用!低コストで実現しよう	2①	
			工夫で減る分をカバーできる	6①	
	自分たちで	すぐにやる	やるのは今からでもすぐに!!	7①	
		できることをやる	要望を言うだけでなく...自分たちのできることを考えたい!	1③	
			施設に親しみが持てる工夫を	2④	
			みんなで維持管理していこう!(ソフト面)	5①	
	共感	情報発信・共有	市民に情報を発信して関心を持ってもらう	2②	
		理解・納得	合理化と市民の納得	4③	
	今後の取組(具体的方策)	複合化の推進	複合施設	複合施設ができたらいいいね	3②
			多機能化	一つの施設を様々な使い方	6②
			コミュニティ施設の複合化	行政施設とコミュニティ施設の機能的合併	8②
学校の複合化			学校の統合が考えられるが、通学が問題になる	8①	
アセットマネジメントの推進		空き施設の活用	利用方法の探究	5②	
			空いた施設の有効利用について考える	7③	
			不要施設の撤去・再利用(ハード面)	5③	
空き情報の可視化		空きスペースを可視化する(公共施設)マッピングとか...	1①		
協働・官民連携の推進		民間への貸出	民間に貸して魅力的な施設にする。(使用料を資材費にまわす)	1②	
		修繕における市民協働	修繕で市民ボランティアを活用する	3①	
問い・疑問	実態把握	現状と課題の認識	現状の利用状態を知りたい	7④	
			公共施設を減らすリスクは?	7②	
			施設の数の多さと老朽化	4②	

※グループ番号は、数字がグループ、丸に数字が共感の順位

(2) 現地視察

●平成 27 年 9 月 29 日（火）午後 1 時 30 分から午後 4 時 30 分

●スケジュール

No	視察先	時間	視察内容
1	市役所榛原庁舎	13:30～13:45	・榛原庁舎周辺施設の配置状況 ・庁舎や文化センターの施設の状況
2	相良小学校	14:00～14:40	・小学校施設の状況 ・相良小学校の施設利用の状況
3	市役所相良庁舎	14:50～15:20	・相良庁舎の持つ機能 ・相良庁舎周辺施設の配置状況
4	牧之原市史料館	15:20～15:35	・史料館の機能 ・史料館の施設の状況
5	川崎幼稚園	15:50～16:30	・認定こども園の概要 ・子育て支援センターの機能

●視察のポイント

今回の視察先は、大きく 3 つの分類

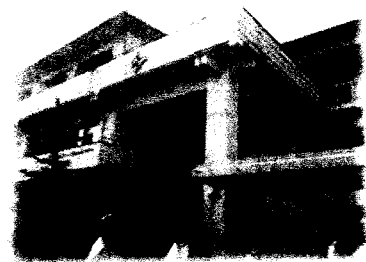
- ・旧榛原、相良の中心にある行政・文化機能を持つ施設
- ・全体の 4 割を占める学校施設
- ・民間の認定子ども園（幼保一体型）施設

現地を見て、雰囲気を感じながら考えることが目的！

●視察の様子



閉鎖中の榛原文化センター
ホール棟の前に集合
前回のポイントを確認して出発



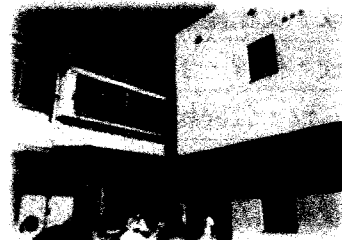
相良小学校では、空き教室を特別支援教室や放課後児童クラブなどに利用





相良庁舎で議場を見学、
同じような施設が榛原
庁舎にもある。

史料館は、旧相良町民の想い
が込められた施設
老朽化が進んでいる。



幼保一体型の認定子ども園に子育て
支援センターの機能も複合化
民間運営、官民連携のヒントを得た。



【西尾さんから講評】

- ・何十年も経つ間に、建物の使い方が大きく変わっている。
※小学校の空き教室の利用、給食センターの資料館への転用
- ・保育や子育ては民間だって担える。
- ・子や孫世代のために前例にとらわれずに思い切った発想で考える。
- ・何十年先を見通した賢い使い方を考えよう。

別添のグラフィック
資料で説明します。

2 今日の進め方

(1) 前回の振り返り

- ・前回の内容は、分野別の話し合いを進めるために非常に重要な内容
- ・前回の内容をグループでもう一度話して、内容を思い出す。

(2) 分野別のありたい姿を考える

- ・現状や現在から考えても思い切った発想は出てこない。
- ・最初に分野別にありたい姿をグループで話し合う。
⇒目指す目標になる。

前回のポイントを
忘れずに！

(3) 現状を聞いて、感じたこと、思ったことを意見交換

- ・市役所の各施設担当から現状の説明を聞く。
- ・そのうえで感じたことや思ったことを意見交換する。
⇒(2)で話したありたい姿とのギャップが今後の課題や取組内容になる。

No	部会	分類①	分類②	分類③
1	行政・文化施設	庁舎	文化施設	
2	学校・体育・子育て施設	学校	体育施設	保育園・幼稚園
3	コミュニティ・公園施設	コミュニティ施設	公民館	公園
4	保健福祉・観光産業施設	保健福祉施設	観光施設	

※市の施設担当から分類①～③の施設を部会毎に説明を聞く。

説明内容は、施設の利用状況と老朽化の状況（各3～5分程度）

第3回で更に具体的に
話し合おう。

3 連絡事項

次回は、10月23日（金） 午後1時30分から4時30分

会場は、相良総合センター い～ら 福祉団体活動室 です。

【事務局】

牧之原市政策協働部地域創生課（本間直樹）

電話：0548-23-0053 FAX：0548-23-0059

E-mail：seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp

平成27年度 第5回 自治基本条例推進会議 議事録

日 時：平成27年10月7日（水）

午前9時～11時

会 場：榛原庁舎4階 会議室1～3

※大石委員・・・欠席

1 開 会

2 会長挨拶

- ・今、全国で第六次産業のことを調べている。国際分業を避けて通ることは出来ない。アジアが期待している産業。農産品、農産品を加工した食料品。この国の中核的な産業として育てることが出来れば。
- ・その一つ(第六次産業)の会社が高知県に。高知空港から車で1時間ほど山の中に。本川根町のようなイメージのところ。馬路村。柚子商品が有名。もともとは林業を中心としていたが、林業が衰退していく中でそれにかわる産業を探して柚子を植えることに。化粧品・石鹸・ふりかけなど商品はいろいろ。十数年で八十近くの商品を開発した。
- ・今の県知事が意識的に「高知県」を「高知家」と呼んでいる。人口70万人程度。日本でも最も高齢化が進んでいる県の一つ。同じ県の仲間・家族という意識から知事がそう呼んでいる。
- ・高知市内に四国管財という会社。従業員600人ぐらい。なかざわさんという社長がとても立派な方。特別支援学校、特別支援学級を卒業してもなかなか就職先がない。それはその子たちだけの問題ではなくて、社会の問題もあるが、教育が社会に通用しないような話をしている。そこにも問題があるのではと考えている。もっと実社会に利活用できるような知識や情報・テクニクを教えなくては。四国管財の方は無償で奉仕をしている。自分の会社に来てもらうメリットもあるかと思うが。
- ・大村市長の松本さん・・・亡くなった。「負けてたまるか」という本。無実の罪で230日間刑務所に収監されたことがあった。それから市長選立候補→市長当選。長崎県は人口激減地帯で有名。唯一、大村市だけ人口が増えている。

- ・会ったときに第六次産業の話をしたこともある。シュシュ・・大村市の人口増を支えている第六次産業。もくもくファームに似ている施設。売上高 10 億弱。施設に買い物に來たり結婚式が出來たりする。集客数 49 万人。

3 市長挨拶

- ・10 年前、坂本先生が中心となって新市建設計画を榛原町・相良町でつくり、10 月 11 日に牧之原市が誕生した。あれから 10 年。11 日には記念式典がある。前日から姉妹都市アメリカワシントン州ケルソー市長夫妻、人吉市長・議長、三戸町長・議長が来る。坂本先生の講演もあり。出席いただければ。
- ・マニフェスト大賞優秀賞受賞。11 月 6 日にグランプリが選ばれる。牧之原市は受賞の常連。第 3 回、4 回、6 回、8 回で受賞。今回、第 10 回。今まで市長は一度ももらっていなかったが、今回は市長部門でも優秀賞をもらった。今年は全 3 部門での受賞。
- ・今、各地区で絆づくりをおこなっている。絆づくりに文部科学省が視察に來た。視察の目的は、牧之原市が進めている対話による協働のまちづくりを公民館活動で全国で実施したい、と。公民館は今まで、政治とか地域課題には取り組まなかったが、本来公民館こそが地域課題に取り組む現場だと。そこで大事なのがファシリテーション。文科省として、全国の公民館活動にファシリテーションを養成していくことを国としてやっていきたいということだった。対話による協働のまちづくりを率先してやっていく時代になってきた。我々がやってきた方向性は間違っていない。今回、公共施設マネジメントにこの手法を取り入れてやるのも全国初の取組では？どうなるのか不安もあるが、職員も一生懸命頑張っている。午後は職員のワークを各セクションごとにやる。ファシリは市長。職員もしっかりこなして、そのうえで市民と対話によるマネジメントの場に出ていく。対話の場に出てきたことをまとめるのではなく、我々が誘導していく。その過程では市の職員も市民の皆さんも通常の枠の中で考える。外からの刺激や外部的なコンサル・大学など、得体の知れない人が入ると出来ることもある。そういった分野に皆さんにもどこかで加わってもらって、話に深みと味わいを持たせながら公共施設マネジメントをまとめていけたら。

4 議 題

会 長：

- ・今週日曜日・・10時～のイベント。10年を総括して報告的講演。外部的な評価として話をする予定。客観的にいろいろと提案させてもらう。

(1) 公共施設マネジメント 第1回対話の場・現地視察について (報告) ・公共施設マネジメントに係る意見交換

～事務局による説明～

会 長：

- ・現地視察・・9割以上の方が参加している。対話の場には出てくるけど現地視察には出てこない人がいると情報のミスマッチが発生する。参加率も良く、よかった。
- ・公共施設マネジメントの必要性・・市民にはもう少し説明したほうがいいのか？ 税収不足。少子高齢化の問題。税収は増えないけど、少子高齢化に伴う市の民生費は増えていく。つぶすのが目的？ 統合するのが目的？ という誤解を生まないようにしなくては。
- ・資料7ページの更新費用の試算。40年後・・我々はいない。もう少し時間軸でひと工夫してほしい。3年後、5年後も分からない人に40年後・・と言われても。市民には真実を正しく知ってもらいたい。

市 長：

- ・公共施設マネジメントについては市民トークでもした。そもそも牧之原市は10年間、お金がない、ない、とバサバサやってきて、市民の皆さんもお金がないことは多少理解してくれている。
- ・40年後・・誰もピンとこない。20年後・・我々もまだギリギリ生きてる？ 子供たちも20年後なら考えられる。小中学生・・東京に行ってる・・などと言う。高校生・・牧之原市に戻って仕事をしていたいとか、なかなかリアルなことを言う。20年後はなんとなく皆も描けるのでは？ そのへんに照準を持っていったらいいかもしれない。

戸塚委員：

- ・ワークショップ立ち上げまでのエネルギーはすごい。5回目に向けて頑張る。
- ・ワークショップは4・5回目がピーク。かなり具体的なイメージをする段取りになるのでは。2回目・3回目で何を準備してやっていくかが前座として必要。
- ・我々が考えようとしているのは公共施設という「ハコもの」のように思えるけど、それだけではない。「ハコもの」はあくまでも姿・形としてあって、見えてないものは職員の働きと利用者の意見。←これについてはまだ触れられていない。
- ・資料1の8ページの指標の変化・・・読み取り方によってはいろんな課題が含まれている。取り違いがないように注意が必要。
- ・学校教育・・・教育界において児童数に対してほぼイコールな形で職員数も減っている？判断をするときに重要な指標になってくる。
- ・数字の読み取り方は重要。4・5回目の総括に向けてかなり具体的な形として報告してもらって、その内容をこの場で委員、事務局とも協議しながら答申に結び付けていかななくては。2・3・4・5回目とステップアップしていくプロセスの中でかなり具体的なデータなり指標なりを特に専門部会とこの会合の中では出していかななくては。「はこ」とらわれすぎないように。その一つのバックアップ材料として職員の働きの可視化、財政負担の可視化、利用者の率直な思いを出来るだけ多く集める。材料が出来て「ハコもの」と一緒に4・5回目につなげていく。

会 長：

- ・行政・・・いろいろな工夫をして職員・議員の数が減少している。「あれもこれも要求してはいけない」という市民の感情も生まれてきている。見えるような形の指標があってもいいのでは。公務員・議員・民生委員・・・指標に入れては？

櫻井委員：

- ・1回目である程度基本的な結論は出ているのではと感じた。キーワードはつかめた。公共施設マネジメントの適正化が実現するために何をすべきか、だいたい考えていることはみんな同じ。

佐藤委員：

- ・1回目の対話の場・・・どうなるか心配もあったが、いろんな意見が出て良かった。全体的にワイワイと活発な意見交換が出来た。

澤島委員：

- ・お母さん方・・・前向きな考え方での意見が多かった。市民と一緒にやっていきたいという市側の本気度が説明を聞いて伝わってきた。
- ・教育の関係・・・これからの子どもの数で大きな影響が出てくると思うが、個人的にはもう少し上で決めてくれても致し方ない。0歳児→6年後は小学校入学。小学校入学の人数など、ある程度は推理出来るのでは？そのへんの指標を出してほしい。
- ・校長など管理職を減らすことによって残る部分を有効的に厚みをつけた教育に使えることを説明すれば前向きに統合の意見も出されていくのでは。「このぐらいに縮小した学校については統合を計画している」という市としてのラインが見えてくると心づもりが出来る。
- ・対話の場に参加しているメンバーは流れを理解しているが、それ以外の市民に対して公共施設マネジメントが対話で動いているということをどのように示していく？

会 長：

- ・大事な意見。対話の場に参加していない人たち全体に対してどう情報を流していくか。さらなる工夫が必要。

山本委員：

- ・市の職員を減らしすぎると負担が大きくなってしまう。ゆとりがなくなると可哀想。行政的にはみんな歩み寄って良くなるように話しましょう・・・というスタンスだが、職員数・民生委員が減ることによってサービスや関わりが冷たくなるのでは。数字だけの決め方ではないほうがいいのかもかもしれない。

永田委員：

- ・第1回対話の場・・・活性化された議論で良かった。「こうすることが出来るよね」という意見は多く出たが、統合に関して可能・不可能をみんな気にして

いる。「こんなふうにしたらいいなと思うけど、そんなことは不可能だよね・・・」と。「ここらへんまでは可能だよ」というところを市側から提示してもらえれば。

- ・グループを見ると各グループごとにうまくテーマ配分されている。今後、どういう系統のグループからの意見がこういう方向性がある・・・と見ていきたい時に、ただグループの番号で示されているとそのへんが見えてこない。配布資料にも何について(福祉・保健系統・・・とか)の意見が明確に示してほしい。
- ・グループ配分はどう分けたか？

事務局：

～事務局による回答～

副会長：

- ・対話の場 1 回目・・・準備含め、シナリオを上手く運んでいた。参加してくれた市民の皆さんの意識レベルが高かった。WS で付箋に書くことが初めての人もいたと思うが、各グループほとんど時間をかけずに書けていた。書いた付箋もうまくグルーピングされていた。具体的にグループ発表の中でも「この小学校は統合したらどうか・・・」という意見も出た。課題・問題点を共有していると理解した。山本委員からもあったが、定数+ α の考えを常に持っていないと、いざというときに対応出来なくなる。

戸塚委員：

- ・この動きをどう同じタイミングで対話の場に参加していない市民に対して理解してもらおうか。市民トークでイントロはOK。広報でも入口の部分である背景・必要性の意思表示はされている。市役所で考えている広報戦略は他にある？

事務局：

- ・グラフィックを使ってうまく発信していく。新聞に記事が載ったときの近隣市の問い合わせが多かった。市内だけでなく、広く発信していきたい。

戸塚委員：

- ・メディアの活用はもう少し真剣に考えたほうがいいのでは。広報まきのほらを核として、マスメディアなども活用して。計画的にことが運べるのは広報

まきのはら。既に HP にも載っているが、公共施設マネジメントの必要性・改革の必要性の基本認識は 8 割・9 割が出来上がっている。→市民意識調査からも見てわかる。広報の特集を組んで大々的に伝えては？あとはマスメディアで市外にもじわじわと。

会 長：

- ・牧之原市・ネットで検索すると藤枝市・富士市よりヒット数が多い。牧之原市から発信しているものもあるし、いかに牧之原市が全国各地から注目されているかわかる。
- ・対話の場に出ている人は、公募の人もいるがほとんどが団体などの代表。自分たちの会議は公式組織ではない、大学でいう学長会議、大学院でいう研究科長会議のような。たくさんの団体がある中で、委員になること自体、勇気がいることだし、時間も費やしている。もっと事務局なり、この会議なりボランティアなりで広めていかないと。情報の出し方によっては不信感を持ってしまい、一度不信感を持たれてしまったらなかなか解除できない。
- ・行政も小さくなりながらも随分頑張っている。高齢社会の中でお年寄りのニーズは一元化出来ない。公務員の仕事はますます増えていく。定数やコストを考えると正規の職員を増やすことは現実難しいし、増やせば逆に反発を買ってしまう。公共施設マネジメントで再編・スクラップしてもサービスの質は変わらないということを表すためには、仕掛けが必要。
- ・仕掛け・例えば。島根県・60~70 代の公務員がゴロゴロいる。1 週間に 2 日ぐらいの勤務で。お金もそれほどもらってはいないが、世のため人のために役立つチャンスと思って仕事をしている。引退職員世代をうまく使ってそういう体制をとってみるのもいいのでは？

戸塚委員：

- ・第 1 回目のときもそういう意見が出ていた。全部に直接コストをかけてやるのではなく、キャパを持っている人は市の中にもたくさんいる。そういう人を上手に市の方向性の中に入れてみては。放っておいたらもったいない。

櫻井委員：

- ・情報を発信して共有してもらおう努力は必要だけど、市民から意見を求める場はある？対話の場の人以外の市民から意見を求める場は？

専門監：

- ・計画をつくるためにこの審議会があり、審議会の意見を更に深めるために対話の場を設けて意見を吸い上げている。2月の報告会では意見を求める。プロセスを知ってもらうことについては別の方法が必要と考えている。パブコメなどは今のところ考えていない。参加条例に基づく手続きでやろうと思っている。計画の中身をしっかりとしていきたい。その後、計画の原案が出来上がった段階でパブコメをやるのが一般的なパターン。
- ・周知の方法について、より多くの人に正しい理解をしてもらうために、広報やHPは市側の主導で出来るが、新聞や雑誌などは働きかけてもなかなか書いてくれないことも多い。対話の場には代表者が来ているのでそういう人たちに更につなげてもらう(口コミ)ことが出来れば。

戸塚委員：

- ・メディアに来てもらうことは100%の実現率ではないことは分かっているが、必ず案内だけは届けておく。欠席の新聞社には投げ込み。こちらが記事をつくれればいい。そのぐらいの信頼関係はつくっておかなくてはならないが。
- ・SNSをうまく活用することも大事。→若い人しか使わない。
- ・毎月どこかで誰か(市長？副市長？部課長？)が何か会合をやっているはず。ファシリティ=独立したものではない。みんなに直接的・間接的に関連があるテーマ。例えば地区長会の席で「こういう動きを今、しています・・」とか。記念式典の中でも会長から伝えてもらったり。ありとあらえる場がある。会議の数=場と言ってもいいぐらいでは？事務局が押しかけて行って、ライブ的に仕掛けていくこともありでは？

専門監：

- ・どのタイミングでどの情報を伝えるかを考えなくてはならない。検討したい。

櫻井委員：

- ・地区長会はなかなか効果があるかも。

会 長：

- ・行政組織ではないが、強力な組織なのでうまく活用できれば。

市長：

- ・ 広報・・・投げ込みも書いてやっている。ガバナンスなどでも取り上げてもらっている。
- ・ SNS・・・重要。フェイスブック・・・シェアしたりして、どんどん情報が伝わっていくスピードが速い。元ネタがあれば提供していきたい。「イベントやりました～」は出るが、こういう一番重要なことはなかなか出ない。
- ・ 職員・・・職員が頑張っていることを職員が伝えるのが下手。職員も辛いときは皆から助けを求めよう。支援してあげる能力<支援してもらう能力を高めていかないと。全部職員だけでやろうと思ったら職員がとても足りない。職員の教育を幹部でやっていきたい。
- ・ 教職員・・・小学校の先生 20 人で 2 億円。→県が出す。市は 1000 万円の管理費しか出さない。学校の統廃合も本来は県が考えなきゃいけないこと。市は建物のことだけ。
- ・ TAX イーター・・・税金が投入されて利益を被る人。←反対するのはこの人たち。最後は決めて、やるしかない。痛みを分かち合いながらやっていかなくては。

戸塚委員：

- ・ 20 年のスパン中、当面 4 年間の大きなフレームワークの中での議論をしている。統廃合・・・ひとり歩きしている？結果的にはそうなるかもしれないが。中には TAX イーターもいるが、多くは TAX ペイヤー。この一つの事業にいくらの税金が投入されている？そこにどれぐらいの職員の手がかかっている？民間の予算が使われている？何人が利用している？単純に割れば、一つの事業に一人あたり 5 万円がかかっている・・・それぞれの学校で比較してみれば必ず差が出てくるはず。トークのめメンバーがある程度の部分まで突っ込んで理解してから判断をしてもらわないとならない。4 年間という期間に縛られることはないが、第一次答申はこう、上限的にこういう改革をしてそのコストは半分になることが分かりました・・・みたいな答申でない。すぐに「あれはだめ、これはこう」と決めてしまう答申ではダメ。2 ステップ・2 段階で、とりあえず第一次答申を出さないと。方向性は明示するが、それが将来の結論になることは避けるべき。そういう意味で職員の働き、利用者の満足度をつかめるだけつかんだうえで討議に入れることが 4 回目、5 回目には必

要。(事務局：そういうものがあります。)あるなら僕らにも知らせてほしい。

事務局：

- ・コストの計算は公共施設白書で具体的な施設と一人あたりのコストが出ている。参加者にも視察の際に配布した。推進会議でも昨年配布した。もう一度配布する？そうしましょう。

会 長：

- ・この後の対話の場で議論するとき、個別施設についてはまだ先の話として、機能についての評価をする中で、なくては困る施設、あれば便利な施設、なくてもいいかもしれない施設がある。一つの視点として、「なくちゃ困るから必要」ではなく、官の役割と民の役割。月に1回、1年間に1回、市民が集まって会議をするならその近くの民間の会社でも会議室を貸してくれるのでは？そういうものは協働の輪で広げていけば？なくては困るから全て行政・・・ではない。民間に代替え出来ないか考えてみる。複合施設との絡みもあるが。民間活用・複合は今回のテーマの中でも重要。

佐藤委員：

- ・広報について・・・年代別に発信の方法を考えてみては？広報の方法を一律で決めてしまうと抜ける世代が出てきてしまうのでは。若い人向けの広報なら、QRコードでサイトにとんでもらう。年齢が上の人には地区長会での説明とグラフィックの班回覧など。

戸塚委員：

- ・公共施設・・・制度にのっかって出来上がった施設。一市二制度・一市二施設がないか棚卸しが必要では。
- ・前にこの会議で配布された資料の中に耐震診断未実施施設が面積的には14～15%とあった、それは早く結論を出したら？施設の山は三つ。耐震診断していない＝結論は出ているのでは？

(2) 公共施設マネジメント 第2回目対話の場について

～事務局による説明～

櫻井委員：

- ・施設の利用状況と老朽化の状況説明・・・データはある？(事務局：ある。)資料があったほうが分かりやすい。

5 副会長挨拶

- ・今日も熱心な議論をありがとうございました。明日の対話の場にも出席お願いします。11日の式典・・・ご都合つければ出席をお願いします。

6 連絡事項

- ・次回開催日・・・改めて日程調整。12月頃か。

7 閉会